

名古屋記念病院

鮫島 玲奈
看護師森 祐喜
(事務職員)業務調整員武内 有城
副院長伊藤 克弥
(放射線技師)業務調整員

取材・文

読売新聞中部支社 前編集委員
医療コーディネーター

片岡 太

大災害時、救命・救助を頼むよ! 名古屋記念病院にDMAT(災害派遣医療チーム)発足。

大災害などが発生した場合、災害現場に駆けつけて人命の救命・救助の医療活動に取り組むDMATチームが名古屋記念病院(名古屋市天白区平針、藤田民夫院長)に発足している。

いつ起こるかもしれない、また、予測できない災害などが発生した場合は、いかに早く災害現場に駆けつけ、負傷者に対する医療活動を開始するかが人命の救助・救命の大きなポイントになるだけに、このDMATチームに対する期待は大きいものがある。

DMATチームについてスタッフの武内有城副院長、鮫島玲奈看護師、伊藤克弥(放射線技師)業務調整員、森祐喜(事務職員)業務調整員に話を聞いた。

Q.DMATチームとはあまり聞きなれない言葉ですね。このDMATチームについて説明してください。

武内副院長／このDMATチームとは、災害派遣医療チームDisaster Medical Assistance Teamの頭文字をとったディーマットのことです。

Q.チームと言うことであればスタッフは医師だけではありませんね。

森業務調整員／医師だけではなく、看護師や医療職それに事務職員の5人から構成されています。

Q.そうすると万一災害が発生した場合は、このDMATチームが現場に駆けつけるわけですね。

武内副院長／その通りで、DMATチーム

は、大地震や航空機・列車事故といった大災害や大事故、また、県や地域での大きな交通事故や災害などが発生し負傷者が多数出た場合、その現場に出動して発生初期の48時間以内の急性期の負傷者を対象に救命・救助の活動をします。

鮫島看護師／私たちDMATチームは、救命・救助のための専門的な訓練を十分に積んでいる専門医療集団なので災害現場到着と同時に負傷者の手当てに取り組みます。

Q.過去名古屋記念病院のDMATチームが出動したことはありますか。

武内副院長／正式にDMATに認定される前ですが、昨年発生した東日本大震災に別の医療チーム(JMAT)として出動しました。

Q.愛知県内で出動したことはありますか。

伊藤業務調整員／愛知県の場合、中等度・重症の負傷者が20人以上出た場合の災害や事故発生の場合、DMATチームに出動の要請が出ています。

武内副院長／都道府県レベルでは、東京の秋葉原殺傷事件やガス爆発などでは東京のDMATチームが、京都の横断歩道に自動車が入った事故では京都のDMATチームが出動しています。幸いなことに愛知県ではまだ一度も出動の要請はありません。

Q.出動要請がなかったからといって安心はできませんね。

武内副院長／私たちDMATチームが出動しないことを願っていますが、大災害や大事故は今日何もなかったからといって明日